



キルギス共和国日本語教師会会報
第69号 2023年12月11日発行
Вестник Ассоциации
преподавателей
японского языка
Кыргызской Республики
№ 69 от 11.12.2023 г.

2023年度国際交流基金助成事業

第7回キルギス日本学・日本語教育国際研究大会

報告：ウィレンスカヤ・ユーリヤ（ビシケク国立大学）

◆8月19日と20日の2日間にわたってキルギス共和国日本語教師会とビシケク国立大学との共催で日本学と日本語教育に関する国際研究大会がハイブリッド方式で開催されました。大会は、キルギスの高等教育機関の教員や研究者の相互交流とキルギス日本両国の友好関係強化を目的としたものです。

大会1日目
2023年8月19日(土)
10:00AM
(キルギス時間)

共 催：キルギス共和国日本語教師会、カラサエフ記念ビシケク国立大学
後 援：在キルギス共和国日本大使館、国際協力機構(JICA)キルギス共和国事務所

第7回キルギス日本学・
日本語教育国際研究大会

西條 結人氏

研究発表・実践報告①

大会2日目
2023年8月20日(日)
10:00AM
(キルギス時間)

プログラム

研究発表・実践報告②

大会参加費:無料(要事前申し込み)

ハイブリッド開催(対面・オンライン併用)

対面会場 ビシケク国立大学 メインキャンパス本館2階
カンファレンスホール
(27 CHINGIZ AIMMATOV AVENUE, BISHKEK STATE UNIVERSITY)

オンライン会場 ZOOMリアルタイム配信

お申込み QRコード

参加を希望される方は、上記のQRコードよりお申し込みください。
参加申込締切: 2023年8月17日(木)まで
KAJLTウェブサイト: <https://jikyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/>
【お問合せ先】E-mail: kyrgyzkenkyutalkai@gmail.com

◆このような研究大会が開催されるたびに、日本語教育の課題に注目が集まります。主催機関のひとりとして、また、キルギスと日本で日本語を学び、現在は日本語教師のひとりとして、オンラインまたは対面で大会に参加されたすべての方々に感謝したいと思います。



◆特に、基調講演をしてくださった広島大学准教授の西條結人先生には心からお礼申し上げます。「『説得の戦略』に着目した日本語スピーチの作成と指導」という先生のお話には多くの質問とコメントが寄せられ、このテーマに対する関心が高いことがよくわかりました。今までにも先生は教師会紀要『キルギス日本語研究』の編集に当初より関わってくださるなど、キルギスにおける日本研究の発展にご尽力くださっていることに改めて感謝申し上げます。

◆大会は例年ない暑さの中での開催になりましたが、多くの日本学および日本語教育関係者の皆様にご参加頂けました。日本語教育以外に、文化研究、経済学、心理学に関する話題もあり、大会参加者は理解しやすい方法で簡潔にそれぞれのテーマを発表しました。

◆来年も引き続きこのような研究大会が開催されることを強く願っています。



キルギスにおける日本研究、日本語教育が 一層盛んになることを願って



研究大会 1 日目には、キルギス共和国駐箚日本国特命全権大使、合田秀樹氏の
ご参加を賜りました。以下に開会にあたってのおことばを再録いたします。

- 最初に、本大会の開催に御力いただいたキルギス共和国日本語教師会の皆様、本大会の共催者であり会場を御提供いただいているビシケク国立大学、そのほか本大会の開催に携わった全ての関係者の皆様の御尽力に敬意を表します。また、国際交流基金は毎年本大会の開催に助成いただいており、御礼を申し上げます。
- 本大会は、過去 3 年は新型コロナウィルス感染防止のためオンラインのみで開催されたと伺っています。本日、関係者が一堂に会し、4 年振りに対面も取り入れた開催となったことを大変嬉しく思います。
- キルギスにおける日本研究、日本語教育は、キルギスの独立後、早い時期から始まっていると承知しています。これまで、教材や文献、研究施設などにいろいろと制約がある状況下において、日本研究、日本語教育に携わってこられた方々の御努力に改めて敬意を表します。お互いの社会や文化を知ることは、相互理解を深め、友好関係を厚くし相互交流を盛んにし、また、経済協力、ビジネスを行っていくための基礎となるものです。キルギスにおける日本研究、日本語教育が一層盛んになることを願っています。
- 今日明日と開催されるこの大会では、様々な機関で日本研究、日本語教育、語学教育に携わっておられる研究者、教育者の方々が、御自身の教育研究成果を踏まえた報告発表を行われると伺っており、大変期待しています。特に、ビシケク人文大学、現在のビシケク国立大学で日本語講師として勤務された御経験のある西條結人広島大学森戸国際高等教育学院准教授は、本大会のため日本からキルギスにお越しいただき、この後基調講演で御登壇いただけるということで、感謝申し上げます。

- また、本大会はオンラインを併用するいわゆるハイブリッドで行われ、日本から多数の日本人研究者の皆様が報告登壇されるほか、キルギスと日本以外の地域からも発表・報告が予定されていると伺っております。本大会が、キルギスはもちろんのこと、グローバルに日本語教育・日本研究の発展に寄与することを期待しています。
- キルギスでは、人口に比して多くの人たちが日本語を学んでいます。このように日本語学習が盛んになったのは、キルギスの日本語教師の皆様、ならびに日本研究者の皆様の日頃の活動の賜であり、その御努力に改めて深い敬意を表します。本大会によって、キルギスにおける日本語学習、日本研究が一層盛んとなることを期待します。
- 日本政府としても、キルギスにおける日本語教育、日本研究の一層の発展を支援して参ります。キルギスと日本は、昨年、外交関係樹立 30 周年を祝いました。両国の友好関係、協力関係が一層発展するよう、私たちも努力して参ります。
- 最後に、本大会の運営に携わった全ての関係者の皆様に改めて感謝申し上げるとともに、今日明日のこの大会が実りあるものとなることを祈念いたしまして、私の挨拶といたします。



第7回キルギス日本学・日本語教育国際研究大会の講演を終えて

広島大学森戸国際高等教育学院
西條 結人 (SAIJO Yuto)

今回、「第7回キルギス日本学・日本語教育国際研究大会」で基調講演をさせていただきました広島大学森戸国際高等教育学院の西條結人と申します。

キルギスとは2015年10月にJICA海外協力隊(当時の青年海外協力隊)日本語教育隊員として赴任してからのご縁で、今回は2019年9月に訪れて以来、4年ぶりのキルギス訪問となりました。まさか、2017年にキルギス共和国日本語教師会の先生方と立ち上げた「国際研究大会」の基調講演のオファーをいただくことになるとは夢にも思ってもいませんでした。この研究大会の基調講演者は、これまでその研究分野の第一線で活躍する先生方が担ってきており、私が務まるのか正直不安でしかありませんでしたが、キルギスの先生方の教育や研究に向けた熱い気持ちとチームワークの良さに助けられながら、なんとか大役を最後まで務めることができました。私からは「説得の戦略」を観点とした日本語のスピーチの作成と指導をテーマに講演をさせていただきましたが、先生方のスピーチ指導の改善や、学生の皆さんのスピーチ練習に役立つものを提供できたなら幸いです。

研究大会以外では、ビシケク人文大学時代に同僚だった先生、学生たち、日本語弁論大会等と一緒に企画・運営してきた日本語教師会の先生方、研究調査でお世話になった研究機関や行政機関の方々等との旧交を温めるとともに、新たな出会いやつながりもありました。研究大会での講演、関連機関への訪問、教育文化フォーラムへの出席など、10日間という短期間ではありましたが、非常に内容の濃いキルギスの旅となりました。(唯一の休暇の日に、憧れの「夏のイシククル湖」にもついに行くことができました！感無量です！)

今後も、日本語教育研究の分野でキルギスと日本の交流がより深くなるよう微力ながら活動していきたいと思っております。2023年4月から広島大学の森戸国際高等教育学院(旧留学生センター、国際センター)



という部局で勤務しておりますが、過去にはキルギスから日本語・日本文化研修留学生が来てくれていたと同僚の先生方や事務の方々から聞いております。キルギス共和国日本語教師会の先生方や学生の皆さんにもぜひ広島大学に来ていただきて、一緒に日本語・日本文化を学んだり日本語教育分野での共同研究に取り組んだりすることができれば嬉しく思います。

最後になりましたが、今回講演の機会をくださったキルギス共和国日本語教師会のママーシェワ・ジィデグリ会長、そして温かく迎えてくださったキルギスの同僚の先生方、学生の皆さん、関係機関の方々に深く感謝申し上げます。



合田大使(中央)、ママーシェワ会長(左)と筆者

インド「多読が好きクラブ」からのメッセージ



▶日本語教育に関するキルギスの国際研究大会で「多読が好きクラブ」の実践例を発表させていただいたことに対し、このメッセージを通してお礼を申し上げます。私たちにとっては、このようなイベントを構成する一部になれたことは大変光栄でした。キルギスの日本語教師会の皆様と日本語を通じてつながる機会に恵まれ、大変嬉しく思っております。

▶キルギスの国際研究大会運営チームの皆様の円滑な開催に向けてのご尽力、心より感謝申し上げます。

ラジャン・ギータンジャリ

▶キルギスの日本語教師会でも多読クラブが設立されることを楽しみにしており、皆様との交流を深める機会を心待ちにしています。

▶知識やアイデアの交換は貴重なもので、今後もキルギスの日本語教育に携わる皆様と協力できることを楽しみにしています。

▶このような機会をいただき、ありがとうございました。改めてお礼申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

ラマチャンドラン・ドゥルガ



第7回日本学・日本語教育国際研究大会に参加して

キルギス共和国日本語教師会主催のこの国際研究大会やセミナーで発表させていただくのはこれで4回目となりました。画面越しではありますが、懐かしいみなさまのお顔を拝見てきて、嬉しいと同時にほっとした気持ちになりました。はじめてのハイブリッド式国際大会ということで、実行委員のみなさんのご準備は大変だったと思います。心より御礼申し上げます。

今回は「テキスト批評を書く」というタイトルで、大学での実践報告をしました。大学生にとって、論文を批判的に読んで、その中で興味を引いたこと、あるいは疑問に思ったことを問題提起として批評を書くことはとても大事なことだと思います。批判的思考、クリエイティブな思考、さらには、それを読み手が納得するように書く力が求められます。これはこの先私たちが生きていくうえにおいても、必要なことです。上級になつたら、ではなく、中級のときから、このような練習をしていくといいのではないかと思っています。西條結人先生の基調講演はスピーチについてのお話でしたが、「説得の戦略」という点では共通する部分があると思います。

ほかの方々のご発表も、とても興味深いものでした。日本語教育に直接かかわる研究だけでなく、ふだん私が全く扱っていない、映像作品についての分析をテーマとしたものや、日本語史を学生さんのプロジェクトとして研究発表させる実践など幅広い研究発表があり、私も大変勉強になりました。また、日本にご家族と住んで研究していらっしゃる先生におかれでは、お子さんのキルギス語の問題が起こっているようです。コロナ禍が少し落ち着き、またグローバル化がより進んでいけば、継承語としてのキルギス語の問題も今後大きくなり、考えなければならなくなります。研究テーマは尽きませんね。例年通り、とても和やかな雰囲気の中で、質疑応答も活発になされ、すばらしい研究大会だったと思います。できれば、いつかまた、休憩時間にキルギスのお菓子やスナックをいただきながら、大会に参加できたらいいなと思っています。参加されたみなさんに感謝申し上げます。

関 麻由美（津田塾大学非常勤講師）



- ▶ サルタナット先生のご紹介で、第7回キルギス日本語学・日本語教育国際研究大会において、「日本語学習者対象の新しいよみかき研究：識字から字をよみかきする社会的実践へ」というタイトルで発表する機会をいただきました。私はオンラインでの参加でしたが、キルギスだけにとどまらず、日本やインドなど世界各地の日本語教師・研究者が一同に会した国際研究大会の熱のこもった雰囲気は国境を越えて強く伝わりました。
- ▶ そして、西條結人先生の基調講演に始まり、実践から研究までさまざまなテーマの発表を2日間で聞くことができ、大変勉強になりました。私の発表にもたくさんの方の質問や感想を頂戴しました。
- ▶ 日本ではシルクロードが大変人気があり、そのシルクロードの要所であるキルギスは多くの日本人にとって憧れの地です。この憧れの地で発表する機会を得たことに感謝し、次回はぜひ現地でキルギスの日本語教育関係者のみなさまの前で発表することができることを心から願っております。

▶ 最後になりますが、今回の国際研究大会を企画し、円滑に運営をしてくださった関係者のみなさまに深くお礼申し上げます。

福永 由佳（国立国語研究所）

日本キルギス文化研究会よりお願い

『日本キルギス文化研究会会誌』第8号（2024年3月発行予定）をガリーナ・ヴォロビヨワ先生の75歳を祝う特集号としたいと考えております。つきましては、教師会会員の皆様はじめガリーナ先生にゆかりのある方々に、エッセイもしくはお祝いのメッセージを寄せていただきたく、お願い申し上げる次第です。

日本キルギス文化研究会代表 アクマタリエワ・ジャクシルク
<https://kyrgyzjaponjarchysy.jimdofree.com/>



第7回日本学・日本語教育国際研究大会によせて 作田 奈苗（聖学院大学）



◆みなさま、こんにちは。作田奈苗です。日本の首都圏の大学で日本語を教えながら、NPO 多言語多読に所属して、日本語多読について実践や研究をしていました。2020年に開催されたセミナーで多読のワークショップを開かせていただいて以来、キルギス日本語教師会のイベントに参加させていただくようになりました。

◆私はまだキルギスに行ったことはありません。いつもオンラインでの参加です。しかし、毎回参加するたびに、この集まりの温かさ、誠実さ、穏やかさ、上品さを感じて、幸せな気持ちになっています。キルギスの先生方だけでなく、先生方につながりのある各国の先生方も含めて、すてきなコミュニティができていると感じています。今回の大会では発表もさせていただきましたが、オンライン参加でも、居心地の良さ、安心感の中で発表を終えることができました。それはこの大会独特の雰囲気であり、他の学会では感じないものだと思います。

◆さて、今回の研究会で私が発表したのは、「グループでのオンライン多読の実践 —多読の場に関する調査より—」というタイトルでした。これは、私が行った調査に基づいて、仲間といっしょに多読（学習者が自由に読みものを楽しんで語学を身につけていく方法）をすることの良さについて述べたものです。私は、多読についての実践や研究を始めて以来、仲間がいると

いうことは本当に大切なことだと思うようになりました。興味が似ていたり、目的が同じだったりする仲間がいれば、何でも楽しく取り組めます。できないと思っていたこともできるようになります。つまらないと思って飽きて投げ出すリスクも減ります。語学学習は長い時間の継続が成功の鍵ですから、仲間の存在は学習を続けるためにとても重要だと思います。仲間に よって作られたコミュニティは、安心できる居場所になります。安心できる居場所があると、人はやる気が出るし、何にでも落ち着いて取り組むことができ、目標に近づくことができるのです。

◆現在、日本語は、世界の中で見て、そんなに主流派ではありません。キルギスでも、ロシア語や英語、韓国語などの方が人気があるのではないかでしょうか。そんな中で、日本に関心を持ち、日本語を学習し、日本語を教えるみなさんには、お互いが大切な仲間なのだろうと思います。その仲間によって作られたコミュニティが、キルギス日本語教師会なのではないかと思っています。みなさんの日本語学習への真摯な思いや、お互いへの思いやりが、この温かいコミュニティを形作っているのではないかと思うのです。オンライン・イベントの時だけではありますが、そのコミュニティの片端につながることができることを、私は光栄だと思っています。また、次の機会にみなさんとお会いするのを楽しみにしています。

Кыргызско-японская международная конференция, способствующая развитию японоведения в Кыргызстане

Алибекова Айгуль (Бишкекский государственный университет)



19-20 августа 2023 года Ассоциацией преподавателей японского языка Кыргызской Республики при поддержке Посольство Японии в Кыргызской Республике и Представительство ЛСА в Кыргызской Республике была проведена 7-я Кыргызско-японская международная конференция по японоведению и методике преподавания японского языка.

На этот раз географический ареал докладчиков был намного широк: господин Юто Сайдзё из университета Хиросимы, Маюми Секи из колледжа Цуда, Нанаэ Сакута из университета Сейгакуин, Дурга Рамачандран из Клуба обширного чтения, Тё Мацусима из magugakuin.com, Юка Фукунага из Национального института японского языка и лингвистики, Мозгунова Александра, Прокофьев Михаил, Федянина Владлена из Московского городского педагогического университета, Шашкина Ольга из Сахалинского государственного университета. Доклады были предоставлены и кыргызскими японоведами: Г. Воробьевой, Ю. Виленской, Ж. Кулмурзаевой, М. Бектурсуновым, который представлял на конференции университет Хоккайдо. Мне, Алибековой А. совместно с моим коллегой С. Смаиловой, также предоставилось выступить с докладом по сопоставлению кыргызских и японских пословиц.

В рамках данной конференции были рассмотрены не только практические вопросы по преподаванию японского языка, но и темы, по разным направлениям японоведения. Со стороны как самих докладчиков, так и слушателей чувствовалось актуальность каждой темы конференции. Была дана широкая возможность задать интересующие вопросы и обменяться мнениями. Благодаря конференции были предоставлены условия по обмену методик преподавания японского языка и дисциплин по направлению японоведение. Конференция имеет высокое значение как в целях повышения эффективности преподавания, так и дальнейшего исследования по японоведению.

抄訳：

キルギス日本学・日本語教育国際研究大会では、日本語教育に関する実践的な問題だけでなく、日本研究のさまざまな方向性に関する話題も検討された。講演者も聞き手も、発表テーマのいずれもが時宜に適していると納得したのではないだろうか。質問や意見交換の機会も広く設けられた。キルギスが日本語教授法や日本研究分野の学問分野の情報を各地域と交換する条件が整った。本研究大会は、教育効果の向上と日本研究のさらなる発展にとって大きな意義を有するものである。

アリベコワ・アイグーリ（ビシケク国立大学）

7-я международная конференция по японоведению и методике преподавания японского языка в Кыргызской Республике

отзыв заведующего кафедрой японского языка
Московского городского педагогического университета
Владлена А. Федяниной

ウラドレーナ・アナトリエヴナ・フェディアニナ
モスクワ市教育大学外国語学部日本語学科長（歴史学博士候補生・准教授）

19–20 августа 2023 г. мне посчастливилось участвовать как докладчик и слушатель в 7-й международной конференции по японоведению и методике преподавания японского языка, проводившейся Ассоциацией преподавателей японского языка Кыргызской Республики.

Это яркое и насыщенное научное событие с актуальными темами выступлений. Однако особо хотелось бы отметить методическую и практическую значимость пленарного выступления г-на Юто Садзё (Университета Хиросима) о подготовке устных выступлений на японском языке, об основных стратегиях выстраивания речи для выступления.

В течение двух дней были представлены доклады, освещавшие разные грани методики обучения японскому языку и культуре в различной образовательной среде, подсказывающие нетривиальные решения сложных педагогических кейсов. Например, весьма интересны педагогические технологии преподавателей из разных образовательных учреждений, из Индии и Японии: коллеги поделились своим опытом, как увлечь обучающихся чтением на японском языке без использования словарей, в группах (*тадоку*, 多読).

В конференции участвовали коллеги с различным опытом работы и различных специальностей, что способствует личностному развитию преподавателей японского языка. Теплая дружеская атмосфера располагала к подробному обсуждению докладов. Сердечно благодарю оргкомитет за регламент, позволивший вести плодотворные дискуссии после каждого выступления. Все два дня царила атмосфера научного праздника и доброжелательности. Огромное спасибо оргкомитету за заботливую и безупречную организацию такого важного научного события, за его продуманный формат, за актуальность, значимость и научную ценность докладов.

Сведения об авторе : Владлена Анатольевна Федянина, к.и.н., доцент, заведующий кафедрой японского языка Института иностранных языков Московского городского педагогического университета



「第7回日本学・日本語教育国際研究大会」について（抄訳）

西條結人氏（広島大学）の日本語スピーチ構成の基本戦略は実践的意義ある方法論で注目に値する。発表者たちの報告は多彩で、特に興味を惹かれたのは、辞書を使わずに学習者を日本語読解に導くインドと日本からの教育方法についての発表だった。この研究大会は教師の成長を促すもので、さまざまな背景や専門を持つ日本と日本語教育研究者が温かくフレンドリーな雰囲気の中、それぞれの発表に対して詳細な議論が行われた。学問の祭日ともいべき親善の雰囲気に包まれた2日間、このような学術イベントの運営に携わった皆様に深く感謝したい。

第7回日本学・日本語教育国際研究大会に参加して

ヴォロビヨワ・ガリーナ (PhD)

◆私は、キルギス日本語教師会が2023年8月にビシケク国立大学を会場に開催した『第7回日本学・日本語教育国際研究大会』に参加し、発表もしました。本大会の特徴は初めてハイブリッド方式で行われたことです。初めての試みでしたから実行委員会にとって簡単ではなかったと思いますが、とてもいい大会だったと思います。

◆基調講演のためにキルギスにいらした広島大学の西條結人先生のスピーチ作成に関するテーマはキルギスの日本語教育にとってとても重要です。キルギスからの発表はもちろん、今回も日本からの発表がありました。以前もキルギスで講演や研究発表をしてくださった関麻由美先生と作田奈苗先生の発表を聞くことができ、嬉しい再会をしました。

◆また、今回初めて国立国語研究所の福永由佳先生ほか日本人の先生方が参加してくださったことも大きな喜びでした。初めてインドからの発表もあってよかったです。今年の大会の特徴は、ロシアのモスクワとサハリンから今までになく多くの発表者がいて、それぞれ興味深い発表をしたことです。これは、モスクワ市立教育大学のサヴィンスカヤ・アンナ先生のサポートのおかげといえます。今後とも協力を仰いでいけるよう期待したいです。



◆教師会とその会員にとって大変光栄なことに、キルギス共和国駐箚日本国特命全権大使合田秀樹氏が研究大会の第1日目に最初から最後までご出席くださいました。

◆私の発表のテーマは「自律性を高める漢字指導」でした。漢字は日本語学習において重要な学習項目です。非漢字圏の日本語学習者にとって漢字学習が最大の難関だということは周知の事実です。発表では漢字の自律学習能力養成の重要性、教師の役割、自律学習で使用できる漢字教材や学習法について話しました。それぞれの発表の後の質疑応答は盛り上がって興味深いディスカッションがありました。

◆研究大会実行委員のママーシェワ・ジイデグーリさん、シェイシェナリエワ・サルタナットさん、ヌスワリエワ・ジルディズさん、ベクトゥルスノフ・ミルランさん、皆さんに感謝します。

キルギスを「もっと」知るコラム

No.1 「キルギスの教育機関名称」



- キルギスの学校には、初等中等教育機関から大学まで、人の名前を記念して冠とする教育機関が数多く存在します。例えば、ビシケク市第17番学校には、ロシアの文豪アレクサンドル・プーシキン (*Александр Сергеевич Пушкин*) の名前が冠されており、正式名称は「プーシキン記念ビシケク市第17番学校 (*Школа-лицей №17 имени А.С.Пушкина*)」となります。
- また、大学でも、ビシケク国立大学は文献学者クセイン・カラサエフの名前を冠していて、正式名称は「カラサエフ記念ビシケク国立大学 (*Бишкекский государственный университет имени К. Карасаева*)」となります。
- キルギス国内の各学校にどんな人物の名前が冠されているかを調べてみると、歴史の勉強にもなって面白いかもしれません。



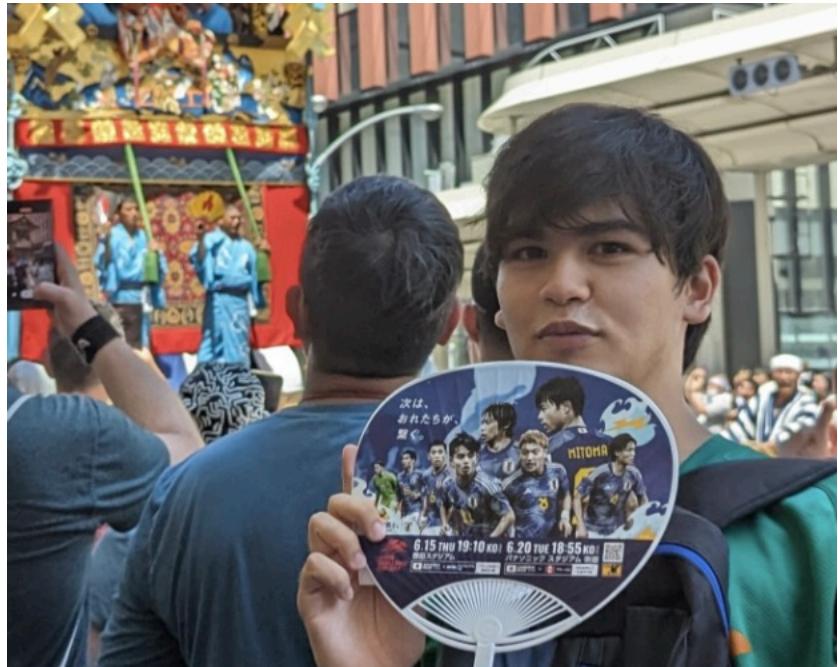
※この記事は Dzhunushalieva et al. (2017) Учебное пособие для японцев Русский язык для продолжающих, ST. art LTD に掲載されているコラムを現在のキルギス事情に合わせて修正したものです。

ビシケクでの留学生活

内山ヴァルーエフ ケン（天理大学、ビシケク国立大学留学中）

▶私はこの9月からキルギス共和国ビシケク国立大学での留学生活をスタートさせました。日本ではロシア語を専攻して3年目となります。ここビシケクでは現地の学生と共にロシア文学の授業に出席して勉強するとともに、少しではありますが、日本語の授業にもお手伝いに入らせていただいております。

▶このキルギスへ来るに至った経緯は少し複雑です。まず、当初の予定では2022年8月から1年間ロシア連邦のモスクワへと留学する予定でした。しかし、ご存知の通り、昨今の情勢変化に伴い、計画変更を余儀なくされました。ロシア語を勉強する上で留学は必ず叶えたい目標だったので、ロシア



がダメならロシア語圏で留学はできないかと大学や先生方に相談したところ、糺余曲折あってビシケク国立大学へと半年間留学させて頂けることになりました。予定よりも1年遅れて、期間も当方の都合により半年となってしましましたが、それでも目標だった留学に辿り着けてホッとしております。

▶大学1年生の頃はキルギスに留学するなんて考えてもいませんでしたが、この国に来たからこそできた経験や出会いは本当に多く、まだ1か月程度の滞在ですが、キルギスに来て良かったと心から思っています。

▶ここまでの一ヶ月を振り返ると、嬉しくなるような良いことも、頭を抱えてしまうような出来事も怒涛のようにたくさん経験しており、1ヶ月とは思えないほど濃い時間を過ごしています。ここまで経験で有意義だと感じた出来事を挙げるなら、日本語を学習する学生のクラスと、全く日本と関係のない文学のクラスの2つを同時に経験できていることだと思います。日本語のクラスでは日本語母語話者として「教える」立場に立って物を考えることに対し、文学のクラスでは他の現地の学生より基礎の劣る留学生として「学ぶ」立場から物を考えます。この2つの異なる視点を持っているおかげで、90分の授業時間内でも学べることは通常の2倍あると考えています。これは留学しているからこそ得られる経験です。

▶最後は自分の将来についてです。結論から言うと、これといった決まった目標はまだありません。しかし、日本語教員という仕事は常に頭のなかにある将来の1つです。というのも、実は私は日本で日本語教員養成課程を受講している最中なのです。この国に来るずっと前から日本語教育について魅力を感じており、留学先で日本語のクラスに積極的に参加しているのもそのためです。そして実際に現場で学生と接する時間は楽しく、自分自身の学びを深める日々で、改めて自分の性に合っている仕事だと感じています。

▶1年半後、大学を卒業してからの自分がどこで何に従事しているのか、まだ全く見えてきませんが、将来また、このキルギスに戻ってきたいなと思っています。

(2023年10月記)

日本留学の思い出

バザルクロフ・デニス（ビシケク国立大学東洋国際関係学部 4 年）

▶私は去年、文部科学省の日研生（日本語・日本文化研修留学生）プログラムに選ばれ、2022 年から 2023 年まで富山大学教育学部に留学しました。現在は、ビシケク国立大学の 4 年生です。

▶初めての日本に到着した翌日、富山駅で留学生を案内してくれる学生ボランティアが出迎えてくれることになっていました。少し不安でしたが、改札口を出ると、「富山大学」と書かれたボードを掲げた男性が二人立っていました。ほっとして、笑顔で二人に自己紹介しました。友達になれるかもしれないと期待して話していたら、二人の後ろの方にいた女性二人が私に気がついて、「サポートするのは私たちです」と言いました。私は男性二人から引き離されるように女性たちについて行きました。後で彼女たちと一緒に食事のときに、男性たちの困った顔を思い出して大笑いしました。あの二人は誰を迎えていたのでしょうか。

▶ところで、食事といえば、富山の魚は美味しいことで知られているようです。ですから、留学中は毎日いろいろな種類の魚を食べました。でも、私が一番忘れない味は、大学の食堂のカレーライスです。日本で食べるカレーは、あの時が初めてでした。「いま、日本の大学で、自分はカレーを食べているんだ」と実感した瞬間を忘れることができません。初めて食べた学食のカレーは格別の味がしました。

▶私の出迎え担当が男性ではなく女性だと分かった次の日から、授業で忙しい毎日が始まりました。ある日、私は留学生のための授業と一般学生のための授業の教室を間違えてしまいました。ちょっと恥ずかしい思いをしましたが、この失敗のおかげで一般学生用の授業も受けてみることにしました。日本人学生と一緒に授業を受けたことによって、留学生のクラスでは出てこない日本語も少しは勉強できたのではないかと思います。留学生どうしの交流も忘れられません。留学中の宿舎だった国際交流会館では、仲間たちがいつも出身国の料理を作りったり、互いの文化を紹介したりしました。留学で世界の友達が一度に何人もできました。



▶留学生用の授業で印象に残ったのは「読解」の授業です。授業名だけ聞くと普通の授業のように思われるかもしれません、実際には授業を行う方法がただの読解授業とは違っていました。学生は、アクティブ・ラーニングで行われる授業の前に文章を読んでおいて、授業中は文章の内容について学生どうして意見を言い合い質問し合うのです。先生の役割は留学生が日本語で正しく表現できるようにサポートすることです。そんな読解の授業のおかげで、思ったことを日本語でかなり言い表せるようになりました。

▶ビシケク国立大学の友達、担任だったジルディズ先生、留学前はお世話になりました。富山大学で出会った友達、指導してくれた先生方、1年間サポートしてくださいださったおかげで無事に留学を終えることができました。生活面であれ、勉強面であれ、何でも支えてくれた人たちに、この場を借りてお礼を言いたいと思います。いま特に思い出すのは、富山県を中心に北陸地方が豪雨で大きな被害が出たとき、名美先生から送ってきたメールです。先生のメールを読んで、「私のことを心配してくれる人がいてくれるんだ」と感動したのを覚えています。



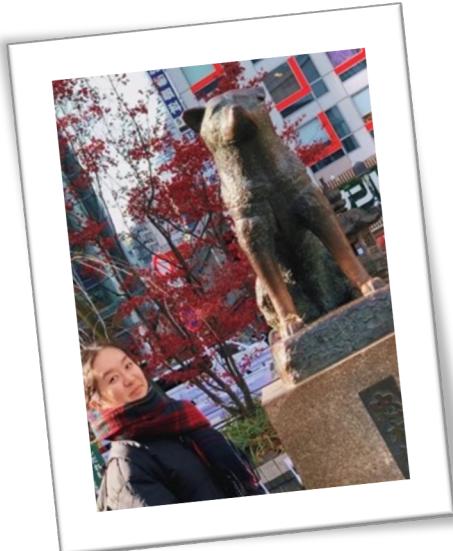
▶来年は大学卒業ですが、これからも日本語を学び続けて、日本語を生かした様々な活動に挑戦していきたいと思っています。将来は、キルギスと日本とのつながりをさらに強固にし、人々の往来や教育文化交流を促進させる架け橋の一つになれるような仕事に就きたいと考えています。

私の世界を広げてくれた日本留学

アルマシェワ・マリカ（ビシケク国立大学東洋国際関係学部4年）

▶私は、文科省のプログラムで日研生（日本語・日本文化研修留学生）として2022年から1年間、長野県松本市で留学生活を送りました。

▶人生の中で、初めての外国への留学だったので、すべてが新しい経験となりました。留学によって貴重な知識を得ることができ、忘れられない思い出もたくさんできました。フランス、マレーシア、ポーランドなどから来た留学生たちとも友達になりました。初めての一人暮らしでしたが、楽しいことも辛いことも、実際に体験することで自分が人として成長できたと思います。



▶留学生活の中で特に印象に残ったのは、もちろん日本のお正月です。チューターさんの家族と一緒に過ごした今年のお正月です。お餅つき、お節料理、みんな揃っての小旅行など、私は実の娘のように受け入れてもらい、楽しく過ごすことができました。お年玉もいただきました！そして、日本で初めてのスキービー体験も！寝込むほどひどい風邪を引いた時は、チューターさんの家族が近くにいてくれていたので、とても助かりました。薬や野菜や食料品をアパートまで持つて来てくれたのです。思い出すたび、いつも感謝の気持ちでいっぱいになります。

▶もう一つ、忘れられない思い出として、私の誕生日のことを挙げたいと思います。松本市の公民館で友人たちが一緒に祝ってくれました。一緒に誕生日ケーキを焼いて、一緒にゲームを楽しみました。みんなが自分の特別な日を共有してくれて、とても嬉しかったです。

▶初めて長野県外へ旅行に行ったときは、マレーシアから来た友達と一緒にしました。浅草など東京の観光名所を訪れて、スカイツリーにも登りました。一緒に色々なことをして楽しめる仲間がいると、自分は一人ぼっちじゃないんだ、と思えて幸せな気分になりました。

▶留学のおかげで、日本語も上達したし、キルギスでは深く学べない日本の文化や日本人の生活に直接触れることができました。いい経験になると思って、松本市の「留学生日本語スピーチコンテスト」にも挑戦してみたところ、優勝することができました。大会では、平和や日本での生活、母国と日本との文化の違いや共通点、日本人との交流などをテーマに、市内の留学生16人が競いました。私は、日本でめぐり合った第二の家族についてスピーチしました。第二の家族とは、もちろん、留学している間、私をずっと支えてくれたチューターさんの家族のことです。

▶留学のおかげで、文化的背景の違いを越えたコミュニケーション能力がアップしたと思います。世界中から日本にやってきた友達と交流する機会がたくさんあったからです。日本語と日本文化だけでなく、東南アジア、アメリカ、そしてヨーロッパ各地の文化や伝統料理、言語も学びました。休日、留学生どうして国際交流会館に集まって、それぞれが出身国の料理を作つて一緒に食事をしながらおしゃべりを楽しみました。そうして作り方を覚えたアメリカのクッキー、タイのチャーハン、インドネシアのナシゴレンを私はキルギスに帰つてからも作っています。

▶楽しいことばかりでなく、1年間キルギスを遠く離れて心細く感じたこともあります。とにかく一人で生き抜いたという体験が私に大きな自信を与えてくれました。留学は自己成長の機会となったと思います。現在、私は大学の最終学年です。大学卒業後は、日本の大学院に進み、日本語の勉強を続けたいと思っています。将来は、日本語の先生になって、自分が経験したのと同じような素晴らしい体験ができるよう、学生たちの手助けができたら嬉しいです。

▶日本で過ごしたこの1年は、私の人生で最も素晴らしい時間の一つとしていつまでも心に残るにちがいません。

失敗は成功のもと キルギス共和国日本語教師会会长になって…



ママーシェワ・ジイデグーリ

◆キルギス共和国日本語教師会会长に選ばれたのは、去年（2022年）の9月でした。会長としての仕事は思った以上に大変で、満足できるような活動ができないまま、あっという間に1年が過ぎてしまいましたが、再任され、今年度も務めることになりました。

◆昨年12月から今年12月までの1年間に実施されたキルギス共和国日本語教師会の事業は次のとおりです。

- 2022年12月：日本語教師対象の「勉強会」（講師は西條結人先生）
- 2023年3月：日本語教師対象の「勉強会」（講師は笈川幸司先生）
- 2023年4月：キルギス共和国日本語弁論大会
- 2023年5月：第26回中央アジア日本語弁論大会および中央アジア日本語教育セミナー
- 2023年7月：2023年度 第1回 日本語能力試験（JLPT）
- 2023年8月：第7回キルギス日本学・日本語教育国際研究大会
- 2023年12月：2023年度 第2回 日本語能力試験（JLPT）

◆日本語教師会での活動は、私自身、個人的にも非常にいい経験となりました。日本語を学んでもう20年ですが、学習者として日本語を学ぶだけでなく、日本語教育普及を活動の中心とする教師会の会長としてキルギスにおける日本語教育発展に少しでも貢献できれば本当にうれしく思います。

◆大きな事業に取り組むのはいつでも誰にとっても大変な仕事で、教師会が主催する事業も準備段階から実施までどれも簡単なことではありません。私もこの1年、失敗の連続で、ああすればよかった、こうすればよかったと反省ばかりしています。しかし、簡単ではないからこそ、活動に関わることが自分自身の成長につながると実感しています。キルギスと日本の関係を一層充実したものにするのは、日本と出会い日本語を学んできたキルギス共和国の人間としての使命だと思います。「失敗は成功のもと」と言います。何もしなければ失敗もしませんが経験を積むこともできません。失敗することによって学ぶことが多いはずです。失敗を繰り返さないよう努めながら少しずつ前進していくことが大事なのだと思います。

◆私は20年前、日本語と出会った17歳の時に、日本語と一生付き合っていくのだと決めました。ですから、今年も、来年も、これからもずっと「キルギスの日本語」に関わる仕事を続けていくつもりでいます。

キルギス共和国日本語教師会会報 第69号（2023年12月11日発行）
編集：キルギス共和国日本語教師会広報委員会《会報編集部》



**Вестник Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики
№ 69 от 11.12.2023 г.**

キルギス共和国日本語教師会 WEB サイト <http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com>

ウィキペディア <https://ja.wikipedia.org/wiki/キルギス共和国日本語教師会>

Facebook https://www.facebook.com/JLteachers.association.KR?ref=aymt_homepage_panel

紀要『キルギス日本語教育研究』バックナンバー

<http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/バックナンバー/>

会報バックナンバー https://drive.google.com/drive/u/7/folders/16jKL1SsP0BHEspQLU_xhXVfKCmiWDx9Y

【連絡先】キルギス共和国日本語教師会事務局 E-mail: kajlt.jimukyoku@gmail.com